

歴史の〇〇

——ラスキンの祝いにかえて

History's Ground Zero:
Genethliacon to/from John Ruskin

江本弘 | Hiroshi Emoto

通史としての近代建築史が興ったのは1930年前後の戦間期。ドイツではグスタフ・プラッツが、アメリカでは例えばヘンリー＝ラッセル・ヒッチコックが、イギリスではニコラウス・ベヴスナーがそれぞれの史観を世に問うた。良かれ悪しかれ、それらの成立には、船舶交通や鉄道交通がより広く一般に開かれた、当時の世情が反映されている。そして次の波は、二次大戦の副産物としての、航空機の大衆化に前後して訪れる。その口火を切ったのは小池新二であり、ミシェル・ラゴンであり、これにレオナルド・ベネヴォロ、レイナー・バナムらが続く。

この、二つの戦後の通史記述ブームを画するのは世界史化の進行である。ジークフリート・ギーディオンの『空間 時間 建築』は、こうした状況の変化に機敏に対応し、増補を繰り返しながら世界史化を目指してきた、近代建築史の生長のドキュメントでもある。日本はここに、第4版から組み込まれた。

あえて技術決定論的に言うならば、自らが生きる時代を含む、近代建築史の世界史性を歴史家に気づかせ、そのビジョンを通史に表現させたのは情報移動の簡便化であった。

と同時に、こうした歴史書を成立させてきた情報移動の手段それ自体は、自らの限界をもって歴史家が描きうる「世界」の範囲を条件づけ、読者の世界認識を規定してきた。それぞれの通史には、それを書かせ、読ませたローカルな内情がある。世界はそのような内情の連鎖、情報の流入出と解釈の網の総体として、本来的にグローバルである。これはなにも、歴史書の成立と伝播にかぎった話ではない。

その歴史の末端から言わば天へと駆け昇り、過去の情報地図全体を俯瞰する。それこそが、情報技術の爆発的發展を目の当たりにする現代の歴史家にかげられた、期待でありまた呪いである。この状況はたしかに、土地に縛られることなく、あらゆる時代のあり得るかぎりの史料を、言語障壁さえ取り払って得られる究極の未来、極限の学問的公平性・科学性を夢想させる。史料のユビキタス化、ビッグデータ解析手法の開発はもはや避けられない。

一方でこの状況は、これまでの近代建築史が伝える史観の妥当性を無化するものでもある。歴史の宇宙に乗りだしてしまった私たちには、離れきたる地上のともしびを、ただ夜景として楽しむほかはない。

すぎるべき藁の浮かぶ宇宙ではない。このような現代、まずは「世界史の世界史」¹が問題なのは自明だろうが、それ自体が広漠なグローバル・ヒストリーである巨大な先行研究批判にいかにかアプローチしてよいか、考えあぐねているのが現状だろう。しかし、近代建築史の新たな「世界」の構築には、本来ならばこの作業が欠かせない。

天に坐す人類とは、現段階ではS Fであり、おそらくは永遠にそうである。歴史家もまた当然人間であり、彼を取り巻き、彼が目にする環境の軌は常にローカルである。しかしこの表象は、技術に時代の変転を予感する人類を常に魅了する。そしてある場合には歴史家を世界史に駆りたて、前時代には「インターナショナル」を、そして現代には「グローバル」を語らせる。

彼の歴史構想は、日々いや増しに突きつけられる、膨張と収縮、解放と閉塞という矛盾のなかで模索される。その極楛の末に表現される「世界」像とは一体、どのようなものであり得るだろう。現代の目を鍛えて世界の見方そのものを考えなおす。それはひとり、歴史家のみ課された責務でも愉楽でもない。

おそらく、私たちが為すべきことには全て、心と意志のエクササイズ以外に意味などなく、それぞれは無用である。そうして、その僅かばかりの効用にすら、自らが手をかけ力を注ぐに値しないならば、あえて目を向ける必要はない。²

私たちの世界史の実験のかたわらでは、令和の始まり、あるいは平成の終わりに生誕200年を迎えたラスキンが、こんなことをつぶやきながら笑っている気がする。

注

1. 布野修司「建築の世界史へ」(『世界建築史15講』彰国社、2019、p. XX)
2. John Ruskin, *The Seven Lamps of Architecture*, sixth edition, Sunnyside: George Allen, 1889, p. 174. 初版は1849年(London: Smith, Elder and Co.)。翻訳は筆者による

江本弘(えもと・ひろし)

千葉大学大学院工学研究院、日本学術振興会特別研究員/1984年生まれ。東京大学工学部卒業。同大学院工学系研究科修了。博士(工学)。近代建築史。著書に『歴史の建設：アメリカ近代建築論壇とラスキン受容』。受賞に第八回東京大学南原繁記念出版賞ほか

